



下末吉だより

令和8年4月7日

4月号

横浜市立下末吉小学校



過去の点を結び、未来に向かう ～二人の스티ーブの夢～

校長 千葉 寛興

昨年度は、多くの保護者や地域の方から、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。本日から177名の児童の学校生活が始まりました。子どもなくして学校なしです。本当にわずかですが、子どもの人数が増えたことはとてもうれしく思います。

さて昨今は、社会変化の速度がさらに増し、予測困難な(VUCA)時代と言われています。そんな社会に変革をもたらすきっかけとなる、ある製品が、50年前の1976年4月11日に誕生しました。「Apple I」、アップルコンピューター社(現アップル社)が発売した最初のマイクロコンピューターです。当時の社員は3名。しかも스티ーブ・ジョブス氏は設計等の知識は皆無であったため、電子回路の知識のある友人の스티ーブ・ウォズニアック氏が設計から製造までほぼ一人で行いました。そして、ロナルド・ウェイン氏が会社登記やロゴをデザインしました。アップルコンピューター社は「Apple I」の売り上げを元手に、翌年「Apple II」を開発。これが、家庭にコンピューターが普及する大きな契機となりました。

この二人の스티ーブは、とても対照的な人物として知られています。機械の知識はないが、時代に必要とされるものを見抜き、製品化することに長けたジョブス氏。一方、ビジネスへの関心は低いものの、スタッフへの配慮や教育活動に熱心なウォズニアック氏。そして二人の스티ーブの良さを引き出し、成功に導こうと参加したウェイン氏。50年前の三人のチャレンジの延長線上に、世界中の人の暮らしが支えられていると思うと、驚きとともにある種の清々しさも感じます。

ジョブス氏は次のような言葉を残しています。「未来を見て、点を結ぶことはできない。過去を振り返って点を結ぶだけだ。だから、いつかどうにかして点は結ばれると信じなければならない。」

50年前に出会った異なる才能が生んだ一つの製品が、点と点を結び、太い線となりました。そして私たちは太い線の先端に立っています。様々な経歴と才能をもつ子どもが集うのが学校です。当然良いことばかり起こるわけではありません。しかしそれは、まだ見ぬ点を結ぼうとする子どもたちの歩みでもあります。新しい仲間、新しい教職員、そして保護者や地域の方々となつた線を伸ばしていける教育活動を目指していきたいと思つています。



下末吉小学校 HP